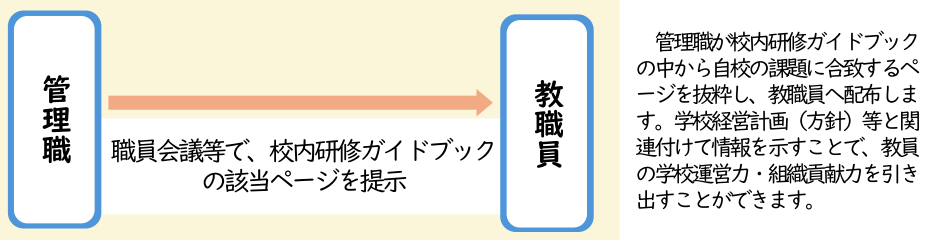
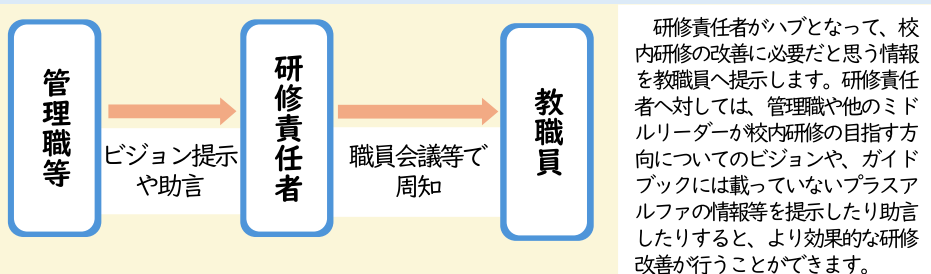


管理職が全校に提示する例



研修の責任者が全校に提示する例



校内研修ガイドブックを活用した校内研修改善の例

- 校内研修に関する課題の整理
「教師が互いに資質・能力を高め合うために、一層活発な協議会にしたい。」
「協議会で、児童・生徒の姿を基に協議するような話し合いを行いたい。」
- ガイドブック記載事項の確認
「活発に意見を共有する協働的な研修の進め方」「グループ協議におけるファシリテーション」のページを活用
- 教職員への周知及び実践
研修責任者が教職員へガイドブック記載事項を周知
・「要因は何か」を考える協議になり、児童・生徒の姿を具体的に語る参加者の増加
・小グループの協議を行うようになり、全員で意見を伝え合う研修を実現

上のように校内研修ガイドブックは、学校の実態や課題に応じて様々な活用方法が考えられます。ぜひ課題解決に向け、活用してください。

校内研修ガイドブック

発行年 令和6年3月 令和7年3月一部改訂
編集・発行者 東京都教職員研修センター研修部教育開発課
所在地 〒113-0033 東京都文京区本郷一丁目3番3号
電話 03(5802)0319
URL https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/09seika/reports/files/bulletin/r6/kounai_guidebook.pdf



校内研修ガイドブック

校内研修を一層充実させてみませんか

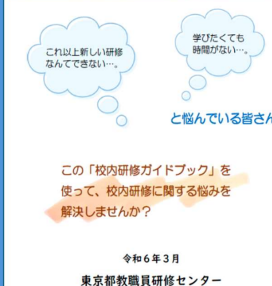
活用リーフレット

学校が目指す教育実現のための校内研修

校内研修で、何を、どのように、何のために学ぶかは、学校が目指す教育や先生方のニーズに応じて各学校で決めることができます。

「研修時間の確保が難しい」「参加者の主体的な姿勢を引き出したい」等の校内研修に関する悩みについて、「校内研修ガイドブック」は多様な事例を用いて解決方法を示しています。

校内研修ガイドブック



新たな教師の学びの姿を引き出すような校内研修の実現が求められています。

校内研修ガイドブックとは？

「新たな教師の学びの姿」「研修時間の確保」「デジタル活用」の三つの柱で充実させるためのヒントを示しています

校内研修ガイドブックは、今、求められている「新たな教師の学びの姿」と、多くの学校で校内研修の課題となっている「研修時間の確保」「デジタル活用」の三つを柱として構成されています。

また、それ以外にも年間計画の立案や講師の選定方法に関する情報も掲載しています。手引ページは Q&A 形式でまとめられており、各校の校内研修に関する課題や悩みに応じて活用することができます。



何を学ぶかを自己決定できるような研修 (小学校)



習熟度別のクラスの授業を同時に公開し、参観者が自分の学びたい内容に合わせて移動できるようにすることで、参観者それぞれが自分に合った内容を学ぶことができますようになります。

各校種の校

様々な校種や形態の校内

ロールプレイを生かした研修(中学校)



研修形態を工夫し、ワークショップ型の形態としてロールプレイを取り入れることで、参加者それぞれの経験を基に学び合うことができますようになります。

校内研修 ガイドブック 掲載 内容

校内研修ガイドブックは「手引ページ」
校内研修に関する課題や悩みを解決

「事例ページ」で構成されています。
するために活用することができます。

新たな教師の学びの姿とは？

中教審の審議まとめて4つの学びが示されました

令和4年の中央教育審議会『『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について(答申)』では、「令和の日本型学校教育」を実現するための教師の学びについて「主体的な姿勢」「継続的な学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」と示しています。

校内研修ガイドブックでは、それぞれの姿勢や学びの具体的な姿を示しています。例えば、主体的な姿勢では学びを振り返りながら、連続性のある学びを生み出している姿、協働的な学びでは、現場の経験や個々に学んだ内容を学校全体の学びの資源として活用し、教師が互いに学び合う姿などです。令和の日本型学校教育」として子供の学びが変わる中、教師の学びも同様に変わることが求められています。

どのように使えるの？

職層に応じた校内研修への関わり方が 記載されています

手引ページは「管理職向け」「研修の責任者向け」「研修受講者向け」と対象者別に記載しています。それぞれの職層や立場に応じた校内研修への関わり方を理解し、実践することで、校内の全員でつくり上げる校内研修を実現することができます。

また、校内研修に関する様々な参考資料も掲載しています。参考資料や事例ページを活用することで、校内研修への関わり方について、より具体的に考え、実践することができますようになります。

校内研究にも役立てられるの？

校内研究やOJTなど、校内で行う様々な教師の学びの場面で役立てることができます

校内研修ガイドブックの「校内研修」とは、「指導力を高める研究」「年間計画に基づいて行う研修」「臨時に行う伝達講習」やOJTなど、校内で行う様々な教員の学びを含んでいます。令和6年度の一部改訂では、研究授業における授業観察のポイントを加筆し、授業研究を伴う校内研究に関する情報が充実しました。

また、研修の参加者同士の対話を引き出すための手引や具体的な事例も掲載しています。校内研修ガイドブックを活用することで、協議会において参加者同士の協働的な学びや主体的な姿勢などを引き出すことができるようになります。



内研修事例

研修事例を掲載しています

年度を越えて継続する研修(高等学校)



自校の研究に関する「スタンダード」を作成し、異動してきた教員や新規採用となった教員が授業を行う際の手だての統一を図ることで、年度を越えて全校で研修を推進することができますようになります。

分科会単位で協議を深める研修 (特別支援学校)



自身が担当する児童・生徒の実態などに応じて選択した分科会に参加できるようにすることで、日々の指導と関連付いた学びや目的志向の学びを実現できるようになります。